令和３年度　久御山町立こども園経営計画及び評価シート

久御山町立　みまきこども園　園長　伊藤　眞美

こども園の現状	保育・教育目標	経営方針
・分園と本園が一つのこども園になり、1号認定児6名・2号認定児63名・3号認定児は27名　計96名の0歳児から5歳児まで子ども達が一緒に、にぎやかに過ごしている。 ・子どもたちは、素直で明るい子が多い。しかし、やや依存心の強い姿も見られる。 ・協力的な保護者が多いが、時代とともに様々な価値観や生活様式も多様化してきており、保護者啓発等にも工夫が必要である。	健康でたくましく心豊かな子どもに育てる ①仲良く元気に遊ぶ子ども ②素直で思いやりのある子ども ③自分で考え行動しようとする子ども ④自分の思いを豊かに表現しようとする子ども	○家庭や地域と連携を図りながら一人一人の育ちを丁寧に見つめ、健やかな心と体を育む。 ・安心・安全な子ども園の運営 ・就学前教育の充実 ・職員の資質向上

こども園経営の重点		成果と課題
乳児保育	○健康・安全な生活を提供し、情緒の安定を図る。 ・保育者との愛着関係・信頼関係を育み、安心して自己表出できるようにする。 ・家庭と連携を図りながら、規則正しい生活リズムと望ましい生活習慣を育成する。	今年度から０歳児～５歳児が同じ施設で過ごしている。本園整備工事の為、分園での生活となった。 ○　乳児にとっては、幼児の姿を間近に見ることができてとても大きな刺激になった。 ○　幼児は、小さな子たちと手をつないで一緒に歩いたり遊具に乗せたりするなど優しい一面が見られ、心の成長を感じた。 ●　職員が自分のクラスだけでなく、もっと縦のつながりも意識した保育をすることが課題である。
幼児教育	○就学前教育の充実 ・一人一人が自己発揮し園生活を楽しむ中で、様々な経験を通して「生きる力」の基礎を育む。 ・小学校や地域との連携・交流を図り、子どもたちの健やかな成長と学びをつないでいく。	○　子どもたちは狭い園庭の中でも土団子やさら砂を作れる土のある所を探し、一生懸命夢中になって遊んだり、色々工夫しながら遊びを進めていく姿が見られた。 ●　昨年以上のコロナ禍で、園小連携については交流がなかなかできなかったが、できることは何かを考えて取り組んだ。 ●　保育者はコロナ感染症の見通しが持ちにくく、保育計画にも迷いが生じ、悩みながらの１年であった。今後も職員全員で一つ一つ考えながら状況に応じた保育を進めていきたい。
乳児・幼児共通	○０歳児から５歳児までの切れ目のない保育 ・各学年、指導計画に基づいて保育していく中で、縦のつながりを意識しながら０歳児から５歳児まで切れ目のない保育・教育を全職員で共通理解しながら進めていく。	●　コロナ禍のため、単独のクラス活動を行うことが多かった。又、他のクラスとの連絡調整が上手くできず、共通理解ができていなかったり、縦のつながりを意識した保育ができていなかったりした。コロナ禍を理由にして立ち止まってはいられない。目の前の子ども達と真摯に向き合い、つながりを感じる保育を全職員で目指していきたい。

評価領域	重点目標（観点別）	具体的方策	評価		
健康	・基本的な生活習慣の形成を図り、健康な心と体の基礎を培う。	・健康な生活を送るために、基本的な生活習慣の大切さを保護者に啓発していく。 ・保育者や友達と十分に体を動かす楽しさが味わえる体験を積み重ねる。	3	3	4
人間関係	・信頼感を育み、自立心と協同性及び道徳性や規範意識の芽生えを培う。	・園内外の人と関われる機会を多くもつ。 ・安心感の中で、自分から行動し、ルールを守る事の大切さを伝える。	3	3	3
環境	・身近な環境に親しみ、豊かな心情や思考力の芽生えを培う。	・保育者自身が感性を豊かにし、子どもが興味や関心を持てるような環境構成を考える。 ・動植物に親しみをもつと共にいたわりの気持ちや命の大切さに気づけるようにする。	3	3	4
言葉	・自分の思いを話したり聞いたりする態度を培い、言葉で伝え合う楽しさや力を育む。	・自分の体験や気持ちを自分なりの言葉で表現できるよう、体験活動を充実する。 ・子どもの興味や好奇心を満たす絵本を準備し、言葉への豊かな感性を養う。	3	4	4
表現	・豊かな感性や創造性を培い、豊かに表現する力を養う。	・様々な体験を通して子どもの気持ちに共感し寄り添う中で、ごっこ遊びや表現遊び等それぞれのイメージを認め共有し、生活や遊びの中で生かしていく。	3	4	4

年間評価	１学期	２学期	３学期
	分園・本園が一つになり、新しい環境に慣れるのに子どもより保育者の不安・戸惑いが大きかった。目の前の子を受け止める事に集中していたが、もう少し縦・横のつながりを考えたり感じたりした保育ができるようにしたい。昨年から一緒に職員会議や研修等行い、保育に対する共通理解に努めたが、コロナ禍で今後も大変な状況が予想される今こそ、職員がより一丸となって同じ思いで保育に励めるよう改善していきたい。	運動会はスポーツ参観として各学年毎に小学校の校庭をお借りして、広々とした中で行うことができた。コロナ感染の広がりが減少し始め、秋の遠足や園小連携なども実施することができ、子どもたちは、様々な経験をすることができた。乳児も戸外でのびのびと元気に遊び、食欲も旺盛で心も体も大きくなってきた。特に言葉の発達に著しく成長を感じる。引き続き、一人一人に寄り添いながら職員みんなでより良い保育を目指していきたい。	新型コロナウイルス感染症が拡大し、３日間休園した。予定していた生活発表会や絵画展も変更し、ビデオ参観や園庭での青空絵画展として行った。本当にコロナ禍に悩まされた１年であった。しかし、行事など更に工夫の余地があり、今後の課題である。また、コロナ禍を通して、保護者の方に支えられているということを改めて痛感し、感謝した１年であった。